

市大祭と「ホームカミングデー」

今年の市大祭は例年より1週間遅く、11月15・16日に行われた。昨年までは6階研究室ベランダから、いつもと違う賑やかなキャンパスの様子を眺めたものだ。

今年の祭りのテーマは、写真のパンフのように「千祭市遇」である。うまいネーミングだ。たくさんの模擬店などが並び、前に進むのも大変であった。学部ができた頃は、寂しいかぎりの市大祭であったが、10数年前からだんだんと活気が出てきた。地域の人たちが家族連れで訪れ、「店」を開く人が増えている。キャンパスを駆け足で一周したが、多くの学生から声をかけられ嬉しかった。



残念だったのは、「最終講義」に来てもらい、この日を楽しみにしていた京ちゃんを案内できなかったことだ。急に寒くなり心配していたが、やはり無理なようだった。天気は良かったが、風が冷たく吹き肌寒さを感じたので、やむをえない。下の写真は模擬店を回る途中で、人文社会学部棟を撮ったものだ。6階の真ん中あたりの研究室をなんだか懐かしく感じた。



市大祭に合わせて、卒業生らが集う「ホームカミングデー」が1階会議室で開かれた。数年前から同窓会与学部が共催する形で開催されるようになり、秋の恒例行事となった。開会前から会場一杯となり、今年も盛況の会となった。最初に6月末に亡くなった石川さんに対して、参加者で黙祷をした。あらためて石川さんがいないことを寂しく感じた。この日も7階の研究室の前に行って、しばし立ち止まった。

同窓会会長や学部長の挨拶などに続いて、4人の名誉教授がスピーチした。私もその一人である。いくぶん緊張気味に、数年前までは「同窓会をどうそうかい」と心配していたなどと、いつもの調子で話した。すこし間をおいて、「反応」らしきものがあり、ほっとした。このところ人前で話す機会も少なくなり、ダジャレがさえなくなっている。ダジャレはコミュニケーションのなかでこそ、「ひらめく」ものだ。

冗談ではなく、最近の同窓会は注目すべきものがある。ホームページがどんどん更新され、「会報」も作成され、同窓会の認知度も上がってきたようだ。挨拶でも述べたが、同窓会「会報」の表紙に私が6階から撮った写真が使われている。「最終講義」などでも紹介したが、昨年秋の台風一過の朝に空一面に広がる虹の写真だ。

ホームカミングデーで久しぶりに卒業生らに会えて、近況を聞けるのは、教師としてやはり嬉しいものだ。学部創設から来年で20年が経つ。早いものだ。これからも可能なかぎり、市大祭とホームカミングデーには滝子キャンパスを訪れたい。

(2014年11月17日)